

英語科の授業内容に関する調査（Ⅰ）

—— 一般教育科目について ——

鈴木順和・大坪勝郎・大塚 稔

A Survey on Subjects Taught in the English Department(Ⅰ): General Education Subjects

Toshikazu SUZUKI, Katsuro OTSUBO and Minoru OTSUKA

SUMMARY

This survey was conducted to investigate students' opinion about general education subjects in the English department. The questionnaire, which consisted of 60 items, was answered by 293 (84.0%) of 349 students in 1993.

The results were as follows:

1) Although there were a lot of subjects, students had a tendency to take a limited number of particular subjects. The reasons for choosing subjects were mainly "compulsory subjects", "subjects in which credits are easy to get" or "interesting subjects".

2) There were wide differences among subjects concerning the degree of interest, usefulness and necessity. 2nd-year students, however, tended to rate almost all subjects as more useful and necessary than 1st-year students. There were inconsistencies as to the degree of interest, usefulness and necessity. Students rated some subjects as not useful, but interesting; other subjects were not interesting, but necessary; other subjects were not necessary, but useful.

3) Students rated their own level of understanding and acquisition of, and satisfaction with, subjects as "so, so (moderate)". The level of dissatisfaction, however, was higher than the degree of understanding and acquisition; especially, they were strongly dissatisfied with the content and method of teaching.

4) They evaluated their own attendance and attitude in class as good. There were, however, a few students who did preparation and review, and as the school year went on, the ratio of attendance and preparation/review became lower. Moreover, about 30% of students were absent from college because of non-checking of attendance or without reason.

These results suggest that students wish the faculty to make teaching more interesting and understandable, but that there is a great gap between the cognition of students and their real behavior in class. The results also suggest that the curriculum of general education should be reformed by considering multiple aspects, rather than one factor only.

英語科のカリキュラム改革と英語科学士の教育・指導に役立てるためにさまざまな調査をすることになった。この研究はそうした調査の1つである。最初に、英語科学士の英語能力および英語能力の努力目標を調べるために、英語検定試験の受験状況と今後の受験希望を調べた(鈴木ら, 1994)。その結果、何らかの英語検定試験を受けたことのある学生が、1年生と2年生を合わせて86.9%で、その内「英検(STEP)」の受験者は合計94.8%であった。受験希望については、90.6%の学生が何らかの英語検定試験を受ける予定にしており、その内99.5%の学生が英検の受験を希望していた。本学英語科の学生についてみると、英語検定試験に対する受験意欲や関心の高さが窺え、特に「英検」における受験率および受験希望が極めて高かった。中学時代からの学校での積極的な指導もあり、英語検定試験の王様ともいえるべき地位を占めていることが示された。

それ以外の英語検定試験については、TOEFLとTOEICの受験希望者が多く、それぞれ合計で13.5%と8.8%であった。これは、両試験共に1年生の方が2年生よりも受験希望者が多かった。実際の受験率は共に英検の3%以下であるが、近年話題になっている新しい英語検定試験に対する受験意欲や関心の高さが示された。特に、学年が下がるにつれてTOEFLやTOEICに対する受験意欲や関心の高いことが示された。こうした実状を踏まえると、今後は英語検定試験という「英検」といった時代ではなくなることが考えられる。また学生の英語運用能力を高める教育の一環として、英検やTOEFLなどの英語検定試験のためのカリキュラムを積極的に導入することも考慮すべきことが示唆された。こうした調査結果が反映され、現在では英検やTOEFL等の受験指導が実際に英語科において行われている。

ところで、短期大学の教育改革について論じるためには、「短期大学とは何か」について考えることが必要と思われる。そこで、まず短期大学設立の経緯についてみていくことにする。短期大学は戦後の学校教育制度改革において4年制大学に移行できなかった旧制専門学校を中心とする学校が、2年または3年の短期の高等教育機関として昭和25年に「暫定」的に認められた大学である。このように4年制大学の枠の中で暫定的な位置に置かれてきた後、昭和39年によりやうく「恒久的な制度として大学制度の枠内に位置づけられることになる(学校教育法の一部改正する法律昭和39年法律第110号)。更に、昭和50年の「短期大学設置基準」(昭和50年4月28日文部省令第21号)の制定によって従来からの暫定的な“設置基準”からよりやうく脱皮し、今日の短期大学の拠り所が定まることになる。

4年制大学が「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」(学校教育法第52条)を目的とするのに対して、短期大学においては「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成すること」(学校教育法第69条の2)を目的としている。これは、短期大学発足当時、わが国の経済的社会的実情から年限を短縮した専門的実務的職業人の育成、特に女子の高等教育の機会拡大を目的とした高等教育機関の設立という歴史的背景と関係がある。そのため、短期大学は「一般教育との密接な関連において、職業に必須な専門教育を授ける完成教育機関であり、同時に大学教育の普及と成人教育の充実を目指す新しい使命」を担った、研究機関というより高等教育大衆化のなかでの高等教育機関であるといえる。事実、平成3年の大学審議会答申『短期大学教育の改善について』の中でも、「短期大学は特に女子のための教育機関として発展し、女子の高学歴化に寄与している」と、短期大学の教育が評価されている。

こうした歴史的背景の下に、本学の英語科のカリキュラムも一般教育科目と専門教育科目および教職に関する科目からなっている。卒業に必要な単位数は、一般教育科目においては20単位、専門教育科目は46単位の合計66単位である。その他、教員免許（中学校教諭二種免許状）の取得を希望する学生は、教職に関する科目の中から20単位を取る必要がある。この3領域の授業科目が、英語科の教育の柱である。英語科のカリキュラム改革と英語科学生への教育・指導の改善のためには、この3領域の授業科目について調べる必要がある。そこで、一般教育科目・専門教育科目および教職に関する科目の受講状況や受講理由、授業の理解度・習得度・満足度、受講態度および出席状況などについて調べることにした。今回は、その中の一般教育に関する調査結果の報告である。

方 法

調査対象者

本学英語科1年生173名、2年生176名の合計349名を対象に調査を行った。回収数は1年生が144名で回収率83.2%、2年生が149名で回収率84.7%、合計では293名で回収率は84.0%であった。その内1年生で3名、2年生で4名の無効回答票があり、実質回答数の合計は286名で実質回答率81.9%であった。

調査時期

1993年11月9日から11月16日にかけて調査を行った。

調査方法

全部で60項目からなる調査用紙を用いて、全員出席する必修教科の時間に各学年・各クラス別に調査を行った（資料1に一般教育科目関連の質問事項のみ記載している）。調査はその時間の始めに行い、その場で調査用紙の配布・回収をした。調査用紙は学年だけを明記する無記名記入の形式であった。合計60項目の質問事項は、大きく一般教育科目、専門教育科目、教職に関する専門教育科目、受講態度および出席状況の4つに分けられていた。なお、調査用紙の作成にあたっては『短期大学の社会学』（伊藤、1991）を参考にした。

結果と考察

調査項目に従って一般教育科目の授業内容、受講態度および出席状況に分けて、質問項目毎に分析していくことにする。なお、下記の質問項目の番号は調査用紙に付けられた番号である。

Table 1 一般教育科目における受講状況・受講理由・満足度等の調査結果

一 般 教 育 科 目								
質 問 項 目	Q1-1		Q2		Q3		Q4	
科 目 分 野	受 講 率		関 心 度		有 益 性		必 要 性	
	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生
人 文 の 分 野	20.3	68.0	51.1	55.0	30.8	34.3	46.1	29.3
社 会 の 分 野	21.5	51.2	38.8	27.4	31.2	25.4	36.9	49.7
自 然 の 分 野	42.5	56.2	43.0	41.0	34.9	32.5	34.2	32.8
総 合 科 目	49.5	99.0	9.6	39.6	24.2	67.3	24.9	72.0
外 国 語 科 目	25.2	24.7	33.0	61.3	24.9	39.4	33.7	52.0
保 健 体 育 科 目	90.6	98.3	32.3	34.6	22.2	21.8	21.8	34.8

質 問 項 目	Q1-2		Q7		Q8	
理 由 内 容	受 講 理 由		満 足 理 由		不 満 理 由	
	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生
1	9.0	20.3	16.1	17.1	49.3	41.2
2	65.3	43.9	18.2	19.2	26.8	41.9
3	55.6	25.0	29.9	24.0	6.3	3.4
4	16.0	7.4	40.1	36.3	37.3	31.1
5	13.2	17.6	13.9	5.5	12.0	6.1
6	16.0	13.5	10.2	12.3	34.5	62.2
7	19.4	23.6	59.9	61.6	45.8	41.2
8	22.2	12.2	38.0	44.5	15.5	27.7
9	0.7	31.1	27.7	31.5	26.1	14.9
10	43.8	60.8	10.2	13.7	10.6	12.8
11	36.1	36.5	21.9	21.2	17.6	6.8
12	4.9	6.8	7.3	4.8	9.9	4.1
13	1.4	0.0	1.5	0.0	4.2	1.4

質 問 項 目	Q6-1		Q6-2		Q6-3	
程 度	理 解 度		習 得 度		満 足 度	
	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生	1 年 生	2 年 生
良 い 1	0.0	0.7	0.7	2.0	0.0	1.3
2	14.2	21.6	26.1	18.9	9.9	19.5
ほ ど ほ ど 3	58.2	59.5	49.3	56.8	50.0	45.6
4	22.0	16.2	17.6	16.2	34.5	28.9
悪 い 5	5.7	2.0	6.3	6.1	5.6	4.7

I. 一般教育科目の授業内容

Q1-1 現在までに受けた授業科目に○印をつけてください。

人文・社会・自然の3分野については、卒業までに最低1科目は取得しなければならないので、2年生の方が1年生より受講率が高い。総合科目・保健体育科目以外は1・2年生共に分野の差が小さいが、各授業科目毎についてみると受講率に大きな差がみられる。1年生では、人文では哲学・心理学Ⅰ・心理学Ⅱは40%を超えるが、それ以外では3～15%と低い。社会ではマスコミュニケーション・現代メディア論・歴史学は40%を超えるが、それ以外では0～23%である。自然でも情報処

理論と生理学概論は50%を超えるが、それ以外は12～38%である。2年生でも人文では心理学・哲学が90%を超え、社会では教育学・歴史学が80%を超え、自然では生理学が90%を情報処理論が70%を超えている。外国語は1・2年生共に英語が約40%と高いが、他の外国語も20%近くの受講率で平均してどの言語も受講されている。総合科目の人間の研究Ⅰ・Ⅱと保健体育科目は必修のため1・2年生共ほぼ全員受講しているが、1年生の総合科目の「宮崎を考える」と「女性を考える」の受講者はいない。以上のように、さまざまな授業科目が開講されているが、現実には人文・社会・自然の3分野については特定の教科目を受講する傾向がみられた。

Q1-2 受講した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

1・2年生を合わせた受講理由のベスト3は、「必修科目で止むを得なかったから」「科目そのものに興味・関心があったから」「単位が取りやすそうだったから」である。これ以外で30%を超えたものは、1年生では「講義内容が面白そうだったから」、2年生では「最初に開講された選択科目だったから」のみである。「教員に好感がもてたから」「専門教育科目と関連があったから」「勉強すると将来役に立つと思ったから」などは10%台であった。両学年共に有益さや必要性といった積極的な理由より、義務や開講時期、単位取得の容易さといった消極的な理由で受講する傾向があった。ただ、1年生の方が授業科目数が多かったため、興味・関心から教科目を選択する傾向がより強かった。

Q2 興味深く、面白いと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

人文の分野が平均すると1・2年生共に50%を超え、社会の分野や自然の分野に比較して高かった。一番関心度が高かったのは、61%を示した2年生の外国語科目であった。

受講者数が少なくとも15名（1割以上）いる授業科目についてみると、40%を超えて関心を持たれた科目は以下のものであった。1年生の人文では教科目間の差が小さく、哲学・心理学・心理学Ⅱ・児童文学のいずれも50%台で、特に神学は81%を示した。しかし、社会では教科目間の差が大きく、地域文化論の40%が最高で歴史学と映像を考えるが30%台であった。また、自然では生理学概論と化学は60%を超え情報処理論は40%台であった。その他の分野では、イタリア語と体育実技が50%を超えているだけで、それ以外は30%以下であった。2年生でもほぼ同様の結果を示し、心理学・哲学・教育学・化学・生理学概論・情報処理論・人間の研究Ⅰ・保健体育実技が40%を超えていた。しかし、外国語科目はいずれも40%を超えており、2年生の方がどの言語に対しても関心度が高いことを示した。ここでも、関心度の高い科目が偏る傾向がみられた。

Q3 役に立った、為になったと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

3分野については、1・2年生共に大きな差はなく、2年生において総合科目が67%と群を抜いて有益だとしている。また、外国語科目も2年生の方が有益とした者が多い。しかし、各教科目毎にみると大きな差がみられた。

受講者数が最低15名（1割以上）いる授業科目についてみていくと、1年生で40%を超えて有益だとされた科目は、人文では心理学・児童文学・神学であった。社会にはなく地域文化論の30%が最高で、自然では生理学概論・情報処理論・化学でそれ以外は30%以下だった。それ他の分野では人間の研究Ⅰだけであったが、69%と最高の数字を示した。なお、外国語科目では英語の37%とイタリア語の35%が比較的高く、それ以外の科目は20%以下であった。2年生は3～4科目を除き、どの教科も30～40%台の数字を示しており、概ねそれなりに有益だとしている。特に、人間の研究

Iは87%の高率を示し、1年生より2年生の方がより有益だとしている。授業の有益さについても教科目間に大きな差がみられるが、1年生より2年生の方が次第に授業の有益さを認識してくることが示唆されている。

Q 4 一般教養として必要だと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

3分野についてみると、1年生では人文が46%と最も高いのに対して、2年生では社会が50%と最も高く、学年によって必要度が異なることが示された。総合科目・外国語科目・保健体育科目については2年生の方がいずれも高く、特に総合科目は72%と群を抜いて高かった。

各科目毎にみるとさらに大きな差がみられ、受講者数が少なくとも15名（1割以上）いる授業科目について40%を超えて必要とされた科目は以下のものであった。1年生の人文では児童文学のみで、心理学・神学が30%台であった。社会にはなく地域文化論の30%が最高で、自然では生理学概論・情報処理論・数学でそれ以外は30%以下であった。その他の分野では、人間の研究Ⅰと英語が60%を超える高率を示しただけで、それ以外は30%以下であった。2年生では、人文にはなく心理学の34%が最高で、社会では日本国憲法・地理学・教育学で、特に日本国憲法は80%の高率を示した。自然では生理学概論と情報処理論だけで、それ以外は30%以下であった。総合科目は共に高く、特に人間の研究Ⅰは91%を示した。外国語科目はいずれも高く、ドイツ語を除き40%を超え、特に英語は77%であった。体育実技も40%を超えていた。授業の必要性についても教科目間に大きな差がみられるが、社会の分野や総合科目・外国語科目などにおいて1年生より2年生の方が次第に授業の必要性を強く認識してくることが示唆されている。

Q 5 その他、一般教育科目として希望の教科目があれば（ ）に書いてください。

1年生で17名、2年生で7名の学生がその他の教科目を希望したが、教科目はさまざまであった。ほとんどの学生が現在開講されている科目で十分と考えているようであった。

Q6-1 授業内容の理解度はどの程度と考えますか。

1年生・2年生共に「ほどほど」と回答した者が一番多く、過半数を占めていた。ただ、理解度が良いとする学生の割合は、1年生が14%なのに対して2年生は22%であり、2年生の方が理解度が高いと認識しているものが多い。授業に慣れてきて、次第に理解度が高まっていることが考えられる。

Q6-2 授業内容の習得度はどの程度と考えますか。

習得度についても、1・2年生共に「ほどほど」と回答した者が一番多く、約半数を占めていた。しかし、ここでは習得度が良いとする学生の割合は、2年生が21%なのに対して1年生は27%と1年生の方が高い。理解度と習得度が逆の結果になっており、実際の習得度と認識の間に乖離がある。

Q6-3 授業内容の満足度はどの程度ですか。

満足度についても、1・2年生共に「ほどほど」と回答した者が一番多いが、50%以下であり、理解度や習得度に比較してその割合が少ない。更に、不満としている者が1年生で40%、2年生で34%もあり、不満に感じている学生が多いことを示している。理解度や習得度では不十分とする学生が、1年生で30%以下で2年生で25%以下であることを考えると、理解できないためや授業が身につかないためではなく、授業そのものの在り方に不満を抱いている学生が多いことが窺える。

Q 7 理解でき満足できた授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

1年生・2年生共に、「授業内容が楽しく、興味深かった」「科目そのものに興味・関心があった」

「授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった」がベスト3であった。この他、30%を超えていたのは2年生の「将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった」だけである。授業の満足度は、学生の興味・関心と深い関係があることが示された。また、教員の教授方法が重要な要素となっていることが窺える。

Q 8 未理解・不満足 of 授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

1年生と2年生では結果が異なり、1年生では「授業が難しかった」「科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった」「教員の教え方に工夫が足りなかった」の順に高かった。2年生では「受講者数が多すぎて、私語が多く気分的に集中できなかった」「授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった」「科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった」「授業内容が難しかった」の順に高く、「教員の教え方に工夫が足りなかった」も30%を超えていた。なお、「教員が熱心でなく不真面目であった」「試験・レポート・宿題などが多かった」は1・2年生共に10%以下であった。学生の不満は、教員が熱心でないとか課題がきついとかではなく、授業内容や授業方法に不満を感じていることが示された。また、2年生については一般教育科目の履修方法の変更に伴う受講者数の多さや私語の多さに不満が持たれていた。

Table 2 一般教育科目における受講態度および出席状況に関する調査結果

		一 般 教 育 科 目									
質 問 項 目		Q25		Q26		Q28		Q29		Q31	
程 度		受講態度		予・復習		相談頻度		相談希望		出席状況	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
熱 心	1	4.3	4.2	0.7	0.0	0.7	0.0	4.3	2.8	47.1	46.5
	2	27.1	22.2	5.7	2.8	1.4	4.2	9.3	14.0	43.6	38.7
普 通	3	52.1	61.1	37.1	29.2	35.5	41.7	29.3	16.8	5.7	10.6
	4	13.6	11.1	22.9	32.6	54.6	45.8	46.4	51.0	1.4	1.4
不熱心 わからない	5	2.9	1.4	33.6	35.4	7.8	8.3	10.7	15.4	0.7	0.0
										1.4	2.8

質 問 項 目		Q27		Q30		質 問 項 目		Q32		Q33	
方法の内容		勉強方法		授業方法		理 由 内 容		出席理由		欠席理由	
		1年生	2年生	1年生	2年生			1年生	2年生	1年生	2年生
	1	5.0	5.6	36.2	28.4	1		50.0	47.2	8.0	5.1
	2	17.1	17.4	13.0	12.8	2		30.7	33.8	34.3	42.0
	3	42.9	38.9	26.1	27.7	3		23.6	23.9	13.9	16.7
	4	51.4	55.6	11.6	21.3	4		26.4	22.5	47.4	50.0
	5	19.3	22.9	8.0	9.2	5		12.1	10.6	5.1	5.1
	6	21.4	21.5	29.7	27.7	6		39.3	28.2	23.4	11.6
	7	2.9	3.5	27.5	20.6	7		40.0	45.8	29.9	34.8
	8	0.0	0.7	0.7	2.8	8		16.4	16.9	41.6	36.2
						9		41.4	52.1	2.9	3.6
						10		7.1	4.9	28.5	18.8
						11		2.1	2.1	29.2	32.6
						12				10.9	17.4

Ⅱ. 一般教育科目の受講態度および出席状況

Q25 一般教育科目におけるあなたの受講態度はどのようなですか。

1年生・2年生共に「普通」と回答した者が一番多く、過半数を占めていた。普通以上には熱心な方とする者の合計は1年生で84%、2年生で88%であり、自分では比較的眞面目に熱心に受講しているほとんどの学生が考えているようである。

Q26 あなたは一般教育科目について予習や復習をどの程度行っていますか。

1年生では「やっている科目とやらない科目が半々」と回答した者が37%と最も多く、2年生では「どの科目もあまりやらない」とする者が35%と最も多い。あまりやらないとする者の合計は1年生で56%、2年生で58%を占めており、大半の学生が予習や復習をほとんどやっていないことが示されている。しかも、1年生より2年生の方が眞面目に予習・復習をやらなくなることが示唆されている。

Q27 授業内容について分からないところがあった場合、あなたはどのようにしていますか（複数回答可）。

30%を超えて回答されたものは、1年生・2年生共に「友人同士で議論する」「先輩や友人に教えてもらう」であり、それぞれ40~50%であった。「教員に個人的に質問する」は1・2年生共に17%であり、多くが友人や先輩に相談していることが示された。

Q28 あなたは教員のところへ授業内容について話をしたり、質問をしにどの程度行きますか。

1年生・2年生共に「まったくない」とした者が最も多く、それぞれ55%と46%であった。「行こうと思わない」を含めるとそれぞれ62%と54%を占め、良くあるいは時々でも行くことがある者は僅か2%と4%であり、ほとんどの学生が授業について教員に質問や相談をしていないことが示されている。

Q29 あなたは教員と授業内容などについて、話し合いや相談をしたいと思いますか。

1年生・2年生共に「多少は話し合いや相談をしたいと思う」とした者が最も多く、それぞれ46%と51%であった。「まったく思わない」は1年生で11%、2年生で15%であった。何らかの教員と大いに話し合いや相談をしたいとする者は、1年生で43%、2年生で34%を占めており、学生自身はもっと教員に相談したり話し合ったりしたいと思っていることが示されている。

Q30 下記の学習形式のうち、いずれがあなたにとって授業内容をよく身につけることのできるものでしたか。

1・2年生共に「教員による講義や模範演技」「視聴覚教材の利用」が上位2つで、それに1年生では「学生の実験・実習・実技」、2年生では「友人との共同学習」が続いている。この中で30%を超えたものは、1年生の「教員による講義や模範演技」だけである。1・2年生共に、ここに挙げた4つがいずれも上位を占めており、講義を聴くだけでもそれなりに効果が上がることが窺える。視聴覚教材の利用や自発的な学習活動を加えていけば、さらに有効なことが示唆される。

Q31 一般教育科目の授業における出席状況を、ありのままに教えてください。

1年生・2年生共に「9割以上の出席率」とするものが最も多く、それぞれ47%と46%であった。「どの科目も大体3分の2以上の出席はしている」とする者が、1年生で91%、2年生で85%であり、ほとんどの学生が受験資格である出席時間は守っていることが示されている。ただし、受験資格の出席率も維持していない学生が、1・2年生でそれぞれ8%と12%であった。回答者数が学生

総数の82%であり、比較的眞面目に出席している学生の中で1割近くの者が受験資格以下の出席率と回答しており、何らかの対策を立てる必要のあることが考えられる。

Q32 よく出席した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

1年生・2年生共に「規則（3分の2以上の出席）があったから」「勉強しなくてはならないと思ったから」「出欠が厳しく取られたから」がベスト3であった。これ以外に30%を超えたものは、1・2年生共に「科目そのものに興味・関心があったから」であり、さらに1年生では「欠席するのが損であったから」であった。出席の主な理由は、規則や義務からであることが示されている。授業内容や教員を評価して出席するものは、いずれも4分の1以下であり、授業内容や教授方法の改善をする必要があることを示唆している。

Q33 欠席や遅刻をする主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

1年生・2年生共に「授業内容に魅力がなかったから」「科目そのものにあまり興味・関心なかったから」「病気などで身体の調子が良くなかったから」がベスト3である。これ以外に30%を超えたのは、2年生の「出欠を取らないから」「なんとなく、特に理由もなく」で、これは1年生でも30%近かった。欠席や遅刻をする理由は、授業の魅力や興味・関心の不足であることが示された。授業が難しいとか勉強が嫌いという者は1～2割以下であり、授業内容の魅力不足や関心の低さに由来していることが示唆される。また、3割近くの学生が出欠を取らないためや理由もなく欠席しており、しかも2年生の方が高いのは、学習意欲不足や無気力な学生がかなりおり、学年が上がるにつれ一層そうなっていることを示唆している。

全体的考察

授業内容についてみると、受講理由は必ずしも明確ではなく、必修であるとか単位取得が容易であるといった消極的な理由から受講している傾向がみられた。勿論、興味・関心から教科目を選ぶという傾向もみられるが、こうした理由で選択しているため科目に偏りがみられている。1学科だけの調査結果で判断するのは性急ではあるが、一般教育科目として多くの授業を提供しても特定の科目に集中し、学校側の意図するようには受講していないというのが現状と思われる。

実際に受講した学生についても関心度・有益度・必要性の面で教科目間に大きな差がみられている。しかし、興味深い点の1つは1年生よりも2年生の方が授業の有益性や必要性をより強く感じていることである。授業を受けた時よりも、就職活動を始めた時の方が授業内容に対する認識が深まっていることである。もう1つの興味深い点は、関心度・有益性・必要性が必ずしも一貫していないことである。人文の分野は興味・関心は高いが、有益性や必要性は相対的に低かった。それに対して、社会の分野は関心や有益性は低い、必要性は高いと認識するようになることが示されている。自然の分野は興味・関心や有益性は総体的に高いが、特定の科目を除き必要性を感じなくなることが示されている。

具体的にみていくと、関心は高かったがあまり有益でも必要とも思わないとする科目（例、哲学・映像を考える）や、関心もあり必要と思ったが有益とは感じなかった科目（例、体育実技）、関心は低かったが有益だと感じたり、必要だと思った科目（例、人間の研究Ⅰ）、それほど関心も有益

さも感じなかったが必要と思った科目（例、英語）、ほとんど関心も有益さも感じなかったが必要と思った科目（例、日本国憲法）がある。こうした結果を踏まえると、カリキュラム改革は、興味・関心といった学生のニーズあるいは国際社会・情報社会といった社会のニーズという単層的な視点で考えるのではなく、さまざまな観点から多層的に考えていく必要があると思われる。

授業の理解度・習得度・満足度については、多くが「ほどほど」だとしているが、理解度や習得度に対して不満度が高いことが示された。これはQ 7・8の質問とも関連しているが、授業内容や授業方法に対する不満が強く、授業内容や教え方に工夫が必要なことを示唆している。これは、高度な内容を熱心で真面目に教えれば学生がついてくるという時代ではないことを予感させる結果である。それ故、常識的な結論になるが、学生の興味・関心に敏感に反応し、分かりやすい授業をすることが現在の学生には必要なことを示唆している。

受講態度や出席状況についてみると、ほとんどの学生が必要な時間（3分の2以上の時間数）は出席し、授業自体は真面目に熱心に受けていると答えており、自分では真面目に熱心に取り組んでいるとしている。しかし、1・2年生共に予習や復習をやってくる学生は少なく、学年が上がるにつれて出席率も悪くなり、予習・復習をしなくなることが示されている。また、出席の主たる理由は規則や義務からであり、3割近くの学生が出欠を取らないためとか理由もなく欠席し、しかも2年生の方がその割合の高いことを示している。こうした点を考慮すると、学生自身がみるほど授業に真面目で熱心ともいえず、むしろ授業に対しては受け身的であり、積極的・主体的に学習しようという意欲が乏しいことを窺わせる。しかも、そうした無気力な態度や意欲不足は学年が上がるにつれて高まっていることが考えられる。

授業内容で不明なところがあった場合についてみると、多くが友人や先輩に相談しており、教師自身に質問したり相談することは少ない。しかしながら、大半の学生は教師に対して相談や話し合いを希望し、しかも3分の1以上の学生はそうした機会を大いに持ちたいとしている。このように、現実行動レベルと意識レベルの間に大きなギャップがある。また、欠席の理由は出席の理由と異なり、授業の魅力や興味・関心の不足であることが示されている。出席は消極的な理由でしているが、欠席はむしろ積極的な理由でしていることが窺える。授業が難しいとか勉強が嫌いという学生は1～2割以下であり、潜在的には学習意欲や積極的姿勢を秘めていることが考えられる。こうした学生のニーズに十分応えていない教育状況を改善することが、授業や学習に対する理解度・習得度・満足度を高めるのに必要と思われる。

伊藤（1991）は短期大学生を対象として「一般教育課程」の調査を行っている。その結果は、受講態度は65%が「普通」とし、予習・復習は89%がほとんどせず、学生の85%が8割以上は出席しているが、規則や義務で出席しており、欠席や遅刻の理由も「講義に魅力がない」「出欠を取らない」といったところが上位を占めていた。授業の理解度も「半々」が55%で、満足度も「中間派」が4割で、難易度も「適当」とするのが75%と、ほとんどの結果は本学と変わらないことを示している。ただ、科目選択の主たる理由は「テーマや内容への興味・関心」「資格取得には必修」「科目名への関心」がベスト3であり、授業の「不満派」は25%以下で本学より低い数字であった。多少、本学の学生より学習意欲や満足度が高いようだが、これらの結果は基本的には本学とも共通するものと考えられる。

片岡ら（1989）は、学生の授業評価に基づいて「よい授業」とは何かを論じている。その分析に

よると、一般教育におけるよい授業の要因として、クラス規模（100人以下のクラス規模で行われる授業がよい）、「教員の人格因子」「授業設計因子」「教え方の技術因子」が挙げられている。本調査結果と片岡ら（1989）の分析を参考に、学生からみた「よい授業」とは何かを考えていくと、一般教育の授業では講義者の人格的な魅力が授業のかかなりの部分を左右する。また、どのように授業を組立て、何を材料とし、どのように教えていくかが重要といえる。このことは学生の立場に立つ限り、大学や短期大学の授業といえど、際立って初等・中等教育での授業とかけ離れていない、といえそうである。具体的な対策としては、適正なクラス規模の設定、教科書やプリントの使用、視聴覚教材の活用や自発的な学習活動の導入といったことが考えられる。

付 記

本研究に協力して戴いた別府昌記教授・市崎一章講師・西田次郎先生および学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

参考・引用文献

- 伊藤順啓 1991 短期大学の社会学 国際書院
 兼子仁（編） 1993 教育小六法 学陽書房
 片岡徳雄・喜多村和之（編） 1989 大学授業の研究 玉川大学出版部
 教務研究委員会（編） 1995 短期大学教務必携 日本私立短期大学協会
 鈴木順和・大坪勝郎 1994 英語科学生の英語検定試験の受験状況に関する調査 宮崎女子短期大学紀要 20,79-93.
 地域科学研究会（編） 1995 短期大学の“改組転換”－その計画と実際 地域科学研究会

[1996年12月10日受理]

(資料1)

質 問 事 項

以下の質問事項について当てはまる番号に○印をつけてください。

I. 一般教育科目

Q 1－1. 現在までに受けた授業科目に○印をつけてください。

1) 人文の分野

- | | | | | |
|--------|-------|--------|----------------|-------|
| 1 哲学 | 2 倫理学 | 3 仏教概論 | 4 神学 | 5 心理学 |
| 6 心理学Ⅱ | 7 文学 | 8 児童文学 | 9 宮崎県の伝承舞踊を考える | |

2) 社会の分野

- | | | | | |
|---------|-----------|---------------|-------|--------|
| 1 日本国憲法 | 2 地理学 | 3 歴史学 | 4 教育学 | 5 教育学Ⅰ |
| 6 教育学Ⅱ | 7 現代メディア論 | 8 マスコミュニケーション | | |
| 9 地域文化論 | 10 映像を考える | 11 民俗学 | | |

3) 自然の分野

- | | | | | |
|--------|------|------|---------|----------|
| 1 生物学 | 2 化学 | 3 数学 | 4 生理学概論 | 5 情報処理概論 |
| 6 生命科学 | | | | |

4) 総合科目

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1 人間の研究Ⅰ（礼節） | 2 人間の研究Ⅱ（勤労） | 3 宮崎を考える |
| 4 女性を考える | | |

5) 外国語科目

- | | | | |
|------|---------|--------|---------|
| 1 英語 | 2 フランス語 | 3 ドイツ語 | 4 イタリア語 |
|------|---------|--------|---------|

6) 保健体育科目

- | | | | |
|----------|----------|---------|--------|
| 1 保健体育講義 | 2 保健体育実技 | 3 健康の科学 | 4 体育実技 |
|----------|----------|---------|--------|

Q 1－2. 受講した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強しなくてはならないと思ったから
- 2 科目そのものに興味・関心があったから
- 3 講義内容が面白そうだったから
- 4 教員に好感がもてたから
- 5 専門教育科目と関連があったから
- 6 勉強すると将来役に立つと思ったから
- 7 大学でしか学べない科目だったから
- 8 先輩が受講するように勧めたから
- 9 最初に開講された選択科目だったから
- 10 必修科目で止むを得なかったから
- 11 単位が取りやすそうだったから
- 12 筆記試験がなかったから、あるいは試験が簡単そうだったから
- 13 その他（ ）

<現在までに受けた一般教育科目についてのみ答えてください。>

Q 2. 興味深く、面白いと感じた教科目について○印をつけてください。

1) 人文の分野

- | | | | | |
|--------|-------|--------|----------------|-------|
| 1 哲学 | 2 倫理学 | 3 仏教概論 | 4 神学 | 5 心理学 |
| 6 心理学Ⅱ | 7 文学 | 8 児童文学 | 9 宮崎県の伝承舞踊を考える | |

2) 社会の分野

- | | | | | |
|---------|-----------|---------------|-------|--------|
| 1 日本国憲法 | 2 地理学 | 3 歴史学 | 4 教育学 | 5 教育学Ⅰ |
| 6 教育学Ⅱ | 7 現代メディア論 | 8 マスコミュニケーション | | |
| 9 地域文化論 | 10 映像を考える | 11 民俗学 | | |

3) 自然の分野

- | | | | | |
|--------|------|------|---------|----------|
| 1 生物学 | 2 化学 | 3 数学 | 4 生理学概論 | 5 情報処理概論 |
| 6 生命科学 | | | | |

4) 総合科目

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1 人間の研究Ⅰ（礼節） | 2 人間の研究Ⅱ（勤労） | 3 宮崎を考える |
| 4 女性を考える | | |

5) 外国語科目

- | | | | |
|------|---------|--------|---------|
| 1 英語 | 2 フランス語 | 3 ドイツ語 | 4 イタリア語 |
|------|---------|--------|---------|

6) 保健体育科目

- | | | | |
|----------|----------|---------|--------|
| 1 保健体育講義 | 2 保健体育実技 | 3 健康の科学 | 4 体育実技 |
|----------|----------|---------|--------|

Q 3. 役に立った、為になったと感じた教科目について○印をつけてください。

1) 人文の分野

- | | | | | |
|--------|-------|--------|----------------|-------|
| 1 哲学 | 2 倫理学 | 3 仏教概論 | 4 神学 | 5 心理学 |
| 6 心理学Ⅱ | 7 文学 | 8 児童文学 | 9 宮崎県の伝承舞踊を考える | |

2) 社会の分野

- | | | | | |
|---------|-----------|---------------|-------|--------|
| 1 日本国憲法 | 2 地理学 | 3 歴史学 | 4 教育学 | 5 教育学Ⅰ |
| 6 教育学Ⅱ | 7 現代メディア論 | 8 マスコミュニケーション | | |
| 9 地域文化論 | 10 映像を考える | 11 民俗学 | | |

3) 自然の分野

- | | | | | |
|--------|------|------|---------|----------|
| 1 生物学 | 2 化学 | 3 数学 | 4 生理学概論 | 5 情報処理概論 |
| 6 生命科学 | | | | |

4) 総合科目

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1 人間の研究Ⅰ（礼節） | 2 人間の研究Ⅱ（勤労） | 3 宮崎を考える |
| 4 女性を考える | | |

5) 外国語科目

- | | | | |
|------|---------|--------|---------|
| 1 英語 | 2 フランス語 | 3 ドイツ語 | 4 イタリア語 |
|------|---------|--------|---------|

6) 保健体育科目

- | | | | |
|----------|----------|---------|--------|
| 1 保健体育講義 | 2 保健体育実技 | 3 健康の科学 | 4 体育実技 |
|----------|----------|---------|--------|

Q 4. 一般教養として必要だと感じた教科目にすべて○印をつけてください。

1) 人文の分野

- 1 哲学 2 倫理学 3 仏教概論 4 神学 5 心理学
6 心理学Ⅱ 7 文学 8 児童文学 9 宮崎県の伝承舞踊を考える

2) 社会の分野

- 1 日本国憲法 2 地理学 3 歴史学 4 教育学 5 教育学Ⅰ
6 教育学Ⅱ 7 現代メディア論 8 マスコミュニケーション
9 地域文化論 10 映像を考える 11 民俗学

3) 自然の分野

- 1 生物学 2 化学 3 数学 4 生理学概論 5 情報処理概論
6 生命科学

4) 総合科目

- 1 人間の研究Ⅰ（礼節） 2 人間の研究Ⅱ（勤労） 3 宮崎を考える
4 女性を考える

5) 外国語科目

- 1 英語 2 フランス語 3 ドイツ語 4 イタリア語

6) 保健体育科目

- 1 保健体育講義 2 保健体育実技 3 健康の科学 4 体育実技

Q 5. その他、一般教育科目として希望の教科目があれば（ ）に書いてください。

（ ）

<一般教育科目の理解度，習得度および満足度についてお尋ねします。>

Q 6－1. 授業内容の理解度はどの程度と考えますか。

- 1 どの科目もよく理解できた
2 大部分の科目はよく理解できた
3 よく理解できた科目とできなかった科目が半々くらいだった
4 特定の限られた科目しか理解できなかった
5 ほとんどの科目がそれほど理解できなかった

Q 6－2. 授業内容の習得度はどの程度と考えますか。

- 1 どの科目も十分習得できた
2 大部分の科目は習得できた
3 習得できた科目とできなかった科目が半々くらいだった
4 特定の限られた科目しか習得できなかった
5 ほとんどの科目は身につかなかった

Q 6－3. 授業内容の満足度はどの程度ですか。

- 1 どの科目も満足している
- 2 大部分の科目は満足している
- 3 満足している科目と満足できなかった科目が半々くらいである
- 4 特定の限られた科目しか満足しなかった
- 5 満足できる科目はほとんどなかった

Q 7. 理解でき満足できた授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

- 1 授業内容がやさしかった
- 2 授業が体系的で全体像がよくつかめた
- 3 教員の熱意が感じられた
- 4 授業がよく工夫され、教員の教え方がよかった
- 5 専門教育科目と関連があった
- 6 受講者数が適当で、気分が集中できた
- 7 授業内容が楽しく、興味深かった
- 8 科目そのものに興味・関心があった
- 9 将来の役に立ちそうな得るところの大きい授業だった
- 10 大学らしい授業だった
- 11 単位が取りやすかった
- 12 筆記試験がなかった、あるいは試験が簡単だった
- 13 その他（ ）

Q 8. 未理解・不満足 of 授業についてその理由をうかがいます（3つ選択）。

- 1 授業内容が難しかった
- 2 授業内容に一貫性がなく、全体の構成が不明瞭であった
- 3 教員が熱心でなく不真面目であった
- 4 教員の教え方に工夫が足りなかった
- 5 専門教育科目と無関係な内容であった
- 6 受講者数が多すぎて、私語が多く気分的に集中できなかった
- 7 科目には関心があったものの、授業内容がつまらなかった
- 8 科目そのものに興味・関心がなかった
- 9 勉強しても得るところがなかった
- 10 高校の授業内容のくりかえしであった
- 11 単位が取りにくかった
- 12 試験・レポート・宿題などが多かった
- 13 その他（ ）

Ⅳ. 受講態度および出席状況

1) 一般教育科目

Q25. 一般教育科目におけるあなたの受講態度はどのようなですか。

- 1 非常に熱心である
- 2 熱心なほうである
- 3 普通と思う
- 4 あまり熱心とはいえない
- 5 不熱心なほうである

Q26. あなたは一般教育科目について予習や復習をどの程度行っていますか。

- 1 どの科目もよくやっている
- 2 大部分の科目でよくやっている
- 3 やっている科目とやらない科目が半々である
- 4 特定の限られた科目のみやっている
- 5 どの科目もあまりやっていない

Q27. 授業内容について分からないところがあった場合、あなたはどのようにしていますか（複数回答可）。

- 1 教室で質問して理解に努める
- 2 教員に個人的に質問する
- 3 先輩や友人に教えてもらう
- 4 友人同士で議論する
- 5 参考書などを読んで調べる
- 6 気になるけれど、そのままほうっておく
- 7 気にもせず、そのままほうっておく
- 8 その他（ ）

Q28. あなたは教員のところへ授業内容について話をしたり、質問をしにどの程度行きますか。

- 1 よく行く
- 2 時々行くことがある
- 3 たまに行くことがある
- 4 まったくない
- 5 行こうと思わない

Q29. あなたは教員と授業内容などについて、話し合いや相談をしたいと思いますか。

- 1 どの教員についても大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 2 多くの教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 3 特定の教員に対して、大いに話し合いや相談をしたいと思う
- 4 多少は話し合いや相談をしたいと思うことがある
- 5 まったく思わない

Q30. 下記の学習形式のうち、いずれがあなたにとって授業内容をよく身につけることのできるものでしたか。

- 1 教員による講義や模範演技（体育など）
- 2 教科書や参考書等による自学自習
- 3 友人との共同学習
- 4 宿題・レポートの作成
- 5 学生による発表や討論を中心とする授業
- 6 視聴覚教材の利用
- 7 学生の実験・実習・実技中心の授業
- 8 その他（ ）

Q31. 一般教育科目の授業における出席状況を、ありのままに答えてください。

- 1 どの科目も9割以上の出席率である
- 2 どの科目も大体3分の2以上の出席率は守っている
- 3 中には3分の2未満の出席しかなかった科目もある
- 4 ほとんどの科目が3分の2未満の出席であった
- 5 どの科目もほとんど出席しなかった
- 6 よく覚えていない、自分ではわからない

Q32. よく出席した主な理由はどのようなものですか（3つ選択）。

- 1 勉強しなくてはならないと思ったから
- 2 科目そのものに興味・関心があったから
- 3 講義内容が良かったから
- 4 講義内容が面白く、勉強が楽しかったから
- 5 教員に好感がもてたから
- 6 欠席するのが損であったから
- 7 出欠が厳しく取られたから
- 8 時々、試験や演習などがあったから
- 9 規則（3分の2以上の出席）があったから
- 10 他にすることがなかったから
- 11 その他（ ）

